

# メディア文化論V

## 3. レコード

# 目次

- はじめに
- レコードの発明
- 音楽ビジネス・著作権
- レコードの与えた文化的影響
- DJ・クラブ文化
- レコードの再評価

# はじめに

## スライド資料について



<https://sammyppr.github.io/>

資料はここに置いていきます。復習にご利用ください。

## メディア表現V

この講義では

記録・保管のための媒体（記録媒体、記憶装置）

を取り上げ、

- 仕組み
- その文化に与えた影響

について論じていこうと思います。

いわゆるマスメディア(新聞・雑誌・ラジオ・テレビ)という視点では論じません。

(経緯については1回目参照のこと)

## 2回目のアンケート結果

大きく次のような意見に分かれました。

- 電子化して残っていない
- 限定された用途で残る
- 今と同じ状態で残っている

面白い意見として

- 重要なものほど紙
- 紙という形が人の感覚的にもすごくフィットするからずっと使われる
- 包装用として残る

## 2回目のアンケート結果

デジタル化のかなり進んだ現在においても、

- ノートを使う人/iPad使う人
- 本・漫画を買う人/電子書籍で読む人
- 紙幣使う人/キャッシュレス決済使う人

など、紙に対する感覚が分かれている気がします。

自分が現在、「紙」とどのような関わり方をしているのか、それは他の人と異なるかもしれない、ということはちょっと意識しておいても良いかもしれませんね。

## 3回目の内容について

音を記録する「レコード」をトピックに扱っていこうと思います。



# レコードの発明

## レコードの発明

1877年、トーマス・アルバ・エジソンが最初の錫箔(しきはく)円筒式蓄音機を開発しました。錫箔とは錫(スズ)を主成分とする薄くて柔らかな金属箔のことです。

その後1888年、ベルは錫箔にかわり、蝋を塗布したボール紙円筒を考案し実用化に成功します。

さらに、ほぼ同時期、エミール・ベルリナーが針の縦揺れを横揺れに変えて円盤のレコードが開発されました。

円盤にしたことで、安価に大量生産が可能となりました。

## 大人の科学

偉大な発明や発見を体感できる商品が売られていました。  
完売になっていますが、まだ在庫残っているところには残っているようです。

- エジソン式コップ蓄音機
- 新エジソン式コップ蓄音機
- ベルリナー式円盤蓄音機

録音も再生も一つの機械でできます。

# エジソン蓄音機／The Edison Phonograph

- エジソン蓄音機／The Edison Phonograph(3:00)



音楽が刻まれた円筒式レコード と 当時の販売用ポスター

## 電氣化・ステレオ化

1920年代に入ると、ピックアップや真空管アンプ（増幅器）などを備えた電気式蓄音機が実用化され、レコードの音質は大幅に改善され、再生できる音域も広がりました。

1958年に世界初の市販のステレオ盤が発売されます。

### 参考

BeatlesではPlease Please Me(1963)からYellow Submarine(1969)まではモノラル盤/ステレオ盤の両方がリリースされていました。が、まだあまりステレオが普及していなかったため、モノラル盤で聴いていたようです。

## レコード盤の仕組み

レコード盤にはその振動を記録した、音溝と呼ばれる溝が掘られています。この溝にレコード針が触れると溝の形状に合わせてレコード針が小さく動きます（振動します）。この小さな振動をカートリッジで電気信号に変換、アンプで増幅することで音を再生することができます。

レコードの音溝は左右45°のV字形状に掘られており、右側にRチャンネル、左側にLチャンネルの音の信号が記録されています。

- レコードの仕組み

## レコード盤の作り方

- 原盤は日本製、高音質なレコードを作るプロの技 | WIRED Japan(7:45)

## レコードの種類

- **SP Standard Play**  
初期のタイプで直径12インチ(30cm),78回転。収録時間 4-5分
- **EP,シングル Extended Play**  
直径7インチ(17cm),45回転。収録時間 -30分(シングルだと5-8分)
- **LP Long Play**  
直径12インチ(30cm),33回転で収録時間 30分
- **12インチシングル**  
直径12インチ(30cm),33回転で収録時間 片面に1曲

参考：レコードの種類



## レコードの外周と内周

レコードは現存しているのはほとんど33,45回転/分となっています。

rpm(Round Per Minute)と呼びます。

レコード盤は一定のスピードで回転しているわけですから、回転数が早い方が音質が良くなります。

$$\text{円周} = \text{直径} \times 3.14$$

ですから、外周と内周で記録できる距離が変わるわけで、外側の方が音が良いことになります。

そのため、12インチシングルというレコード盤があるわけです。

# 音楽ビジネス・著作権

参考

## 音楽ビジネスの始まり

レコードが開発されるまでは「楽譜」が音楽メディアでした。  
楽譜を出版することが音楽ビジネスであったわけです。

- 作曲家から「曲」を預かって楽譜として出版する
- それを貴族や演奏家にレンタルし、その収益から曲の預かり賃を作曲家に還元する

これが著作権ビジネスの始まりです。

現在の著作権管理会社は本など出していないのに「音楽出版社」というのもここからきています。

参考: ストリーミングを聴きながら音楽ビジネスの歴史と未来を考えてみた

## 音楽メディア：楽譜からレコードへ

1902年にナポリ出身の無名なテノール歌手、エンリコ・カルーソーのレコードを発売し、このレコードが大ヒットを記録することによって、状況は一変しました。カルーソーが吹き込んだレオンカヴァッロのオペラ『道化師』の中のアリア「衣装をつける」が収録されたレコードは、100万枚以上の売上げを記録しました(世界初)。

- [レオンカヴァッロ 《道化師》「衣装をつける」カルーソー\(3:29\)](#)

このことは、蓄音機とレコードの普及に大きく貢献し、

- 蓄音機というハードを売るために
- 優れたソフトが必要であり
- 優れたソフトはアーティストをプロモートする

として次々とレコーディングが行われるようになります。

## 著作権制度の不備

楽曲をレコードに複製する権利(機械的録音権、メカニカル・ライツ)に関して規定がなかったため、誰もが自由かつ無償で楽曲をレコードに複製することができました。

つまり、楽曲の権利者にはお金が全く入りませんでした。

作曲家の粘り強い陳情活動により1909年メカニカル・ライツが認められるようになりました。

## レコードの無断複製

レコードの無断複製が自由に行われていたため、今度はレコード制作者が著作権を主張するようになりました。

1934年に

- 著作権には著作物をレコードに録音する権利が含まれていること
- レコード制作者がそのレコードについて著作者とみなされ、著作権が与えられること

が明記され、レコードの無断複製が禁止できるようになりました。

## 国際条約

- 実演家、レコード製作者及び放送機関の保護に関する国際条約
- 許諾を得ないレコードの複製からのレコード製作者の保護に関する条約

## 現在でも

新しいメディアが出てくると著作権上グレーになる時期があります。  
法律も時代と共にアップデートする必要がありますね。



# レコードの与えた文化的影響

## アルバム・アートワーク

LPサイズのアナログレコードジャケットは(315mm x 315mm)とかなり大きく、アーティストの実験の場となりました。デザイナーたちのクリエイティビティやオリジナリティを世界に向けて発信する手段でもありました。アンディ・ウォーホールもその輝かしいキャリアをアルバムカヴァーのデザインからスタートしています。

- [Top 50 Most Iconic Album Covers Of All Time\(2:51\)](#)

参考：[アルバム・アートワークの歴史：ジャズからロック、プログレを彩るデザイナーとアーティスト達](#)

## ジャケットや盤をメディアとしたアート

ジャケットだけでなく、ビニール盤自体が表現の場として利用されました。

- [The Art of the Vinyl Record\(9:08\)](#)

## 長編作品のフォーマット、コンセプトアルバム

コンセプト・アルバム（Concept Album）は、ある一定のテーマまたは物語に沿った楽曲によって構成されたアルバム。アルバム全体でひとつの作品になっている作品をさしています。

通常、ロックのアルバムに収録されている曲は、互いに無関係な単独の楽曲から構成されているのに対し、コンセプト・アルバムとは、それぞれの楽曲が関連を持ち、アルバム全体で一つのストーリーを持っているようなアルバムです。

BeatlesのSgt. Pepper's Lonely Hearts Club Bandが史上初のコンセプトアルバムと言われています。曲同士の間隔を短くし、最後にはアンコールに応えるように曲を流すなど、レコードタイトルと同じ名称の架空バンドのコンサートを聴いているような構成に仕上げています。

## 輸入レコード

世界中で様々なレコードが販売されていましたが、日本のレコード屋では主に日本で販売されているものしか扱っていませんでした。

そんな中輸入盤を扱うレコード屋さんが渋谷・宇田川町にありました。現在も「シスコ坂」という地名に残っている? 「CISCO」です。

1970年代からアナログレコード販売の最大手として名を馳せた「シスコ・インターナショナル」が柳光ビルを拠点として展開し、全盛の頃はレコードを買い求める人たちの行列が大通りまで続く光景が見られました。当時、ほど近いところにタワーレコードがあり、今も宇田川にあるマンハッタンの店舗など、音楽の街・宇田川文化を発信していたのです

# 柳光ビル&シスコ坂のモニュメント

## 柳光ビル&シスコ坂のモニュメント

Monument of Ryukou bldg. & DISCO-zaka

「宇田川町」…地名の由来は、渋谷川の支流、宇田川が流れていたことですが、いまは暗渠化されて川の流れをみることはできません。

その宇田川に、1960年代、柳光ビル&柳光商事は誕生しました。以来、半世紀を超えて、渋谷宇田川町が地域の姿に移り変わる歴史を見守ってきました。



### ★創始者「一柳富次」のストーリー

柳光ビル&柳光商事の創始者・一柳富次は、鎌倉生まれ、小学生の頃から父親の商売「魚善」を手伝って成長しました。

小学校の卒業式に、校長先生が「どのような仕事でもいいから、日本一をめざしなさい」と語った言葉を忘れず、「関東一の商売人になろう」と誓ったのです。

大学を卒業後、会社に就職しても常に脳裏には独立して事業を興すことを考えていました。そして20代に中古自動車業界紙の営業をしながらガスメーター器具関連の事業を興しました。

日本は経済成長の著しい時代であり、一柳富次は将来の都市計画で渋谷の発展を確信して、1967年7月、渋谷宇田川町に「柳光商事株式会社」を設立し、中高層ビルを建てました。「柳光ビル本館」の誕生です。

その後、柳光ビル別館、宇田川柳光ビルを建てながら、半世紀以上、宇田川町の移り変わりを見守ってきました。

### ★宇田川文化のルーツ、一世を風靡した「シスコ・インターナショナル」

柳光ビル本館と別館の前の道は、渋谷では珍しい裏通り——数段の階段があるレトロな光景が繰り広げられています。ここは通称「シスコ坂」と呼ばれていました。

その名の由来は、1970年代からアナログレコード販売の最大手として名を馳せた「シスコ・インターナショナル」が柳光ビルを拠点として展開し、全盛の頃はレコードを買い求める人たちの行列が大通りまで続く光景が見られました。当時、ほど近いところにタワーレコードがあり、いまでも宇田川にあるマンハッタンのお店など、音楽の街・宇田川文化を発信していたのです。

しかし、インターネットの普及とともにレコード等の音楽産業は低迷し、2008年にシスコ・インターナショナルは幕を閉じました。ただ、いまでもその文化の名残はあり、音楽と食が融合した空間を楽しめる大人の街（裏シブヤ）ともいえる場となっています。



## 貸しレコード屋

1980年6月、東京都三鷹市に「黎紅堂」と呼ばれる貸しレコード屋が誕生しました。  
1枚250-300円と1/10程度でレンタルできました。

レンタルレコード店は急速に拡大していきます。

30店(1980),約1000店(1981),約1700店(1982)

借りて聞くだけだったら問題なかったものの、多くの人が家でカセットテープに録音していたため、レコード店の売り上げが減少、若い世代から圧倒的な支持を受けたレコードレンタルですが、裁判を起こされます。

「貸与権」という考え方が明文化されていなかったのですが、この後著作権法改定に反映されていきます。

このレンタル、という考え方はこの後CD,ビデオ,DVDへと引き継がれていきます。

## ソノシート

「ソノシート」（英語名：flexi disc）とは、塩化ビニールなどで作られた薄手のやわらかいレコードのことです。フランスのS.A.I.P.というメーカーが開発し、1958年にSonopresse（出版社であるHachetteとS.A.I.P.が設立）がソノシート付き雑誌（「Sonorama」）の形態で刊行したのがソノシートの始まりです。

ソノシートは非常に安価で大量生産しやすいことが特徴で、1960年代の音楽雑誌や、1970年代の子ども向け雑誌などの付録として広く使用されていました。

ソノシートには、レコードやCD等の他媒体では発売されていない音源も多く、また、音楽以外にニュース等の音源もあり、当時の音の文化を知る上で貴重な資料となっています。



# ガンダム効果音

アニメージュという雑誌ではこんなものがついてました。  
昔持ってたんですけど...



- [1981] 機動戦士ガンダム 効果音集 (Gundam 0079 Special Sound Effects Collection)  
- Full Flexi Disc/Vinyl Rip(4:59)
- MOBILE SUIT GUNDAM SPECIAL SOUND EFFECT DISK

# DJ・クラブ文化

## DJという職業

DJ(disc jockey)とはかつて

ラジオDJ 主にラジオ放送局のラジオ番組で本人の選曲やリクエスト曲を流す人物・司会者を指す

の意味で利用されていましたが

演奏会場やクラブ、ソフトなどで再生機器で客に聴かせる人物

の意味でみなさん馴染みがあるかと思います。

## DJミキサーの始まり

曲を繋げるのではなく、1曲終わったら音が止まり、次の曲をかけるスタイルでした。そして、PAミキサーではなくDJミキサーと呼ばれる商品が開発されるようになります。

- [The Note Episode 1 | Alex Rosner: Shaping the Sound of New York\(4:27-5:39\)](#)



## DJスタイルの発展

- 1 曲終わったら音が止まり、次の曲をかけるスタイル
- 2 台のレコードプレーヤーを使って曲が終わる前に 2 台目の曲を流して途切れることなく曲を流すスタイル

参考:[DJの歴史](#)

## ブレイクビーツの発見とヒップホップ誕生

客が盛り上がり楽しそうに踊っている「ブレイク」部分がずっと続けばいいのと思ったDJクール・ハークは、同じレコードを2枚、レコードプレイヤーを2つ用意し、1枚目と2枚目で曲のおなじ部分を切り替えながら繰り返し流し続けました。

これがブレイクビーツと呼ばれるようになりました。

- [Kool Herc "Merry-Go-Round" technique\(3:55\)](#)

ブレイクビーツ・ラップ・ブレイクダンス・グラフィックアート

これらの要素があわさり、1970年代後半～1980年代初頭のNYのストリートからヒップホップは育ってきたカルチャーといえます。

## DJミキサーの発展

DJミキサーはその後発展していき、だいたいこんなUIをしています。



- プロのDJでも知らない人がいるかも？ DJミキサーについて(6:31)

## スクラッチ

レコードを楽器にしてしまったのがスクラッチという奏法です。

- [DJ DELightfull // Scratch Freestyle Jazzy Boom Bap Beat // Vinyl Djing\(0:56\)](#)

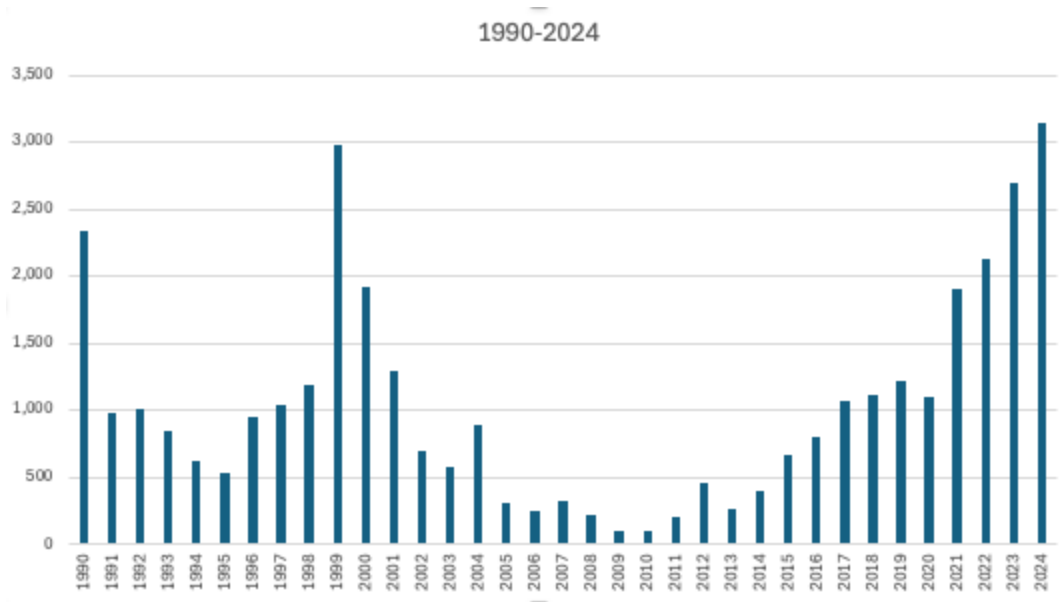


# レコードの再評価

# レコード売上枚数

- アナログディスク 生産数量・金額推移

1980年頃の本盛期には2億枚ほど売れていました。CDは1982年に発売。近年明らかに再評価されていることがわかるでしょうか？(単位：千枚)



## ブーム？

2023年の特集番組を見てみましょう。

- レコード人気いま再び復活支える日本の技術(12:36)
- 【オカネのヒミツ】再熱「レコード」の魅力！超高級プレイヤーも登場 中古買取も高値で ノスタルジーだけじゃない若者もハマるワケ 【報道ランナー】(9:03)

ブームと呼ばれる状況ではなく、再評価として良い状況ですね。

## まとめ

「レコードの発明」「音楽ビジネス・著作権」「レコードの与えた文化的影響」「DJ・クラブ文化」「レコードの再評価」と話をしてきました。

録音ができるレコードという記録媒体により、様々な影響を与えたことがわかってくれればと思います。

## おまけ

自分は小学校の頃からたまにレコード買ってましたが、一番聴いたレコードはきっとこれです。



## 小レポート

manabaより以下の内容で提出してください。

なぜ現代においてレコードが再評価されているのか